

毎週日曜発行
2024 9/8

こども新聞 週刊がほピョンプレス

河北新報社 TEL.022-211-1111(月曜から金曜)



地球のためにできること

福祉作業所が再生紙を商品化



柔らかかな手触りの5色の紙。毎年8月にある「仙台七夕まつり」で使われた飾りの紙が、名刺やポストカードに生まれ変わります。生産を手がけるのは、宮城県南三陸町にある「のぞみ福祉作業

きょうのテーマ

みんな思い出

みんな動こう

みんな知りたい

みんな守ろう

みんなトモダチ



原料を溶かした水を型枠に入れ、揺すりながら水を切る菅野さん

所」。国連の持続可能な開発目標（SDGs）の8番目「働きがいも経済成長も」に通じる事業で、障害のある人たちが紙をすてきに再生させ、新たな価値を生み出



七夕飾りの紙 新たな価値

しているよ。



同作業所では牛乳パックや古新聞などを提供してもらい、細かくちぎって水に溶かし、手すきで再生紙にして商品化しています。障害のある29人が町内外から作業所に通い、取材に訪れた8月上旬は、3人が紙をすく作業に当たって



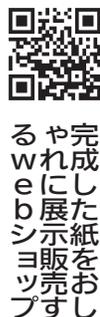
七夕飾りで使われた花紙をもとに作ったポストカード

再生紙を商品化する事業は2017年に始まり、19年から七夕飾りに使った紙を取り入れていきます。飾り作りを手がけ



原料をすく人、機械で水を吸い取る人、表面をならして干す人、流れるような作業です。菅野浩平さん(20)は「型枠を揺るとき、水がこぼれないように気をつけています」と笑顔で話します。尾形透所長は「やりがいを持って作業してもらいながら、手仕事の製品を多くの人に知ってもらえたら」と菅野さんらを見守ります。

る鳴海屋紙商事(仙台市)が、くす玉に使った柔らかな花紙を提供します。東京のデザイナーユニット「HUMORABO(ユーモラボ)」が「NOZOMI PAPER(ノゾミペーパー)」というブランドで商品を販売し、事業を支えます。作業所のメンバーが丹念な手仕事で紙を作り、ユーモラボは多くの人に買ってもらえるよう、紙の持ち味やできあがるまでのストーリーを発信します。「形が整った工業製品と違う、福祉施設で作られるからこそ魅力を感じたい」とユーモラボの前川雄一さんと亜希子さん夫妻は言います。作業所とデザイナーができることを分担し一緒に取り組むことで、紙が安定して売れ、収益につながっていくことを目指しているそうです。



完成した紙をおしやれに展示販売するwebショップ

今週の注目ニュース

◇9日(月) 救急の日
救急について理解を深めてもらおうと、1982年に当時の厚生省が決めました。この日を含む1週間は「救急医療週間」として、全国各地で例年、救急にまつわるさまざまな取り組みが実施されます。

きょうの紙面

2面	イマ★どきりポート
3面	3分チャレンジ
4・5面	わが校わがまち スクール通信
6面	くわしく学べる! こども英語
7面	投稿特集
8面	子育て・教育相談コーナー